

<国語>

大田区立蒲田中学校

国語科の分析

- <関心・意欲・態度> ほぼ9割に近い高い正答率であり、学力調査問題に対して関心意欲が認められる。
- <話す聞く能力> スピーチ、電話の応対などへの関心は高く、正答率も高い。スピーチの内容についての能力は、東京都と大田区の平均値を3.4上回り、平常の知識を生活に生かしている部分が認められる。
- <書く能力> 書く能力について、関心意欲は都の数値を上回るものの、部分的に低い正答率が認められる。特に読みやすく分かりやすい文章になるよう推敲する能力が不十分である。
- <読む能力> 文章の構成や論旨の展開を正確にとらえ、内容理解に役立てる力が十分ではない。必要な情報を集め活用する力が不足していると考えられる。
- <知識・理解・技能> 漢字の知識や「副詞の働き」、敬語について、正答率の傾向は、都・区と同じであるが、部分的に不十分な達成率が認められる。今後もきめ細かく指導していく必要がある。

国語科の課題

- <関心・意欲・態度> 各教科の基本である特性、国語に関する重要性、将来への有用感を育成することが課題である。
- <話す聞く能力> 自分の考えを人に伝え、相手の考えを尊重して受け入れる話し言葉の指導、コミュニケーション能力の育成の一層の充実が課題である。
- <書く能力> 文の長さや段落の関係などを考えて、読みやすくわかりやすい文や文章になるよう推敲する力を育成することが課題である。
- <読む能力> 文章の展開を確かめながら読み味わい、主題を考える力や、必要な情報を集め活用する力を育成することが課題である。
- <知識・理解・技能> 小学校における漢字の指導を踏まえた、漢字を確実に書ける力の育成や日常生活に関連させた意識の涵養が課題である。

授業の改善策

- <関心・意欲・態度> 国語に関する関心・意欲を持たせる工夫を一層加え、一時間ごとの目標を明らかにして、授業を展開していく。
- <話す聞く能力> 3年間の学習指導計画の中で、また、総合的な学習との関連の中で必要な言語技術を扱い、知識としてだけでなく、スピーチや群読、話し合い活動を通して体験させる場を体系立てて設けていく。
- <書く能力> 知識や情報を、目的にあった日常的・実用的な表現活動に十分取り入れることが大切である。実用的な報告文を書くなどの学習、言語活動の能力を育成するなど、話す・聞く能力との組み合わせを工夫するものとする。
- <読む能力> 文章の展開などの課題について比較して読んだり、調べるために読んだりする機会を設定して学習を展開し、文章の詳細な読解に偏ることなく、課題に応じて概括的にとらえさせる学習の場を設けるなどの工夫を行う。文章の共通点や相違点などに気付かせる指導を行う。
- <知識・理解・技能> 「書くこと」の指導での文章の推敲指導と組み合わせて指導したり、書写の指導と関連させたり、日常の読書活動と関連させて指導する。小学校との関連や日常の言語生活との関連を意識させて指導する。また、大田区中学生漢字検定を活用して漢字への関心を高めるものとする。

学年の目標

- 1年 学習習慣の実行を目指し、基本的な音読、漢字の学習、話す聞く技能の育成を目指す。
- 2年 学習習慣の定着を確立し、各領域にコミュニケーション能力を活用した学習を設定する。
- 3年 発展的・自主的な学習を確立し、文章の推敲を様々な場面に活用させる。

